

GCAサヴィアン

欧州ニュースレター 2014年8月



Vol.7 ポーランド



はじめに

第七回目の今回は、ポーランド特集です。

昨年欧州セミナーを開催した際に関心のある地域について質問をさせて頂いたところ、多くのクライアントの皆様から「東欧」という回答を頂戴しました。推察ながら、ポーランドを念頭に東欧という名前を挙げて頂いた方も多かったのではと思います。

ポーランドは人口で見れば欧州で7番目に大きな国家であり、マーケットの大きさという点で今後の成長が期待される国ですが、大きな成長を遂げている一方で未だ人件費が高騰しておらず、「注目すべきタイミングは今」と言える国だと思えます。

ポーランドの協業先とディスカッションをする中で、過去苦い歴史があったにも関わらずドイツと非常に友好的な関係を築いて成長している話を聞きました。まさに欧州で導入された壮大な平和プロジェクトである「EU」という仕組みが上手く機能していることを実感した次第です。

最近では欧州各国とロシアの関係が緊張していますが、その中においてもポーランドは積極的な外交戦略を展開し、EUにおけるプレゼンスをどんどん向上させています。日本からは少し遠い印象もあるポーランドですが、今後数年間は更なる成長が期待される国です。本レポートを通じ、是非ポーランドの魅力に触れて頂ければと思います。

GCAサヴィアン  
フランクフルトオフィス  
村井 慎

## ポーランド概況

実質GDP成長率  
(2013年)

1.6%

※ 2012年は+2.0%  
※ EU28か国平均は+0.1%

消費者物価上昇率  
(2013年)

+0.8%

※ 2012年は3.7%  
※ EU28か国平均は+1.5%

失業率  
(2014年5月)

9.6%

※ 2013年は10.3%  
※ EU28か国平均は10.6%

- 実質GDP成長率について、2013年は1%台と低迷したものの、政府は2014年は一転して3%以上が可能と予測しています。理由としては、これまで成長を下支えしてきた外需に加え、2013年後半から内需回復の兆しが見えてきたことが挙げられています。
- 2013年は足元の国内経済の弱さ、最大の輸出先であるドイツ経済の弱含みに影響される形で消費者物価上昇率は約7年ぶりの水準まで低下しました。政府はユーロ圏経済の先行き不透明感の高まりやインフレ率の予想以上の低下を受けて、2013年には計6回の利下げにより合計1.75%を引き下げました(現在の政策金利は2.5%)。
- 2002年には20%の水準にあった失業率は2008年には7.1%の水準まで回復、その後緩やかに上昇を続け2013年には10.3%の水準まで上昇しました。しかし、足元では雇用環境は改善傾向にあり、消費者信頼感指数も2010年以来的の水準まで回復しています。

## ポーランドM&amp;A

日ポーランド案件数  
(2011 - 2013年)

6件  
(うち6件は日本企業による  
ポーランド企業買収)

主な日ポーランド  
案件  
(2011 - 2013年)

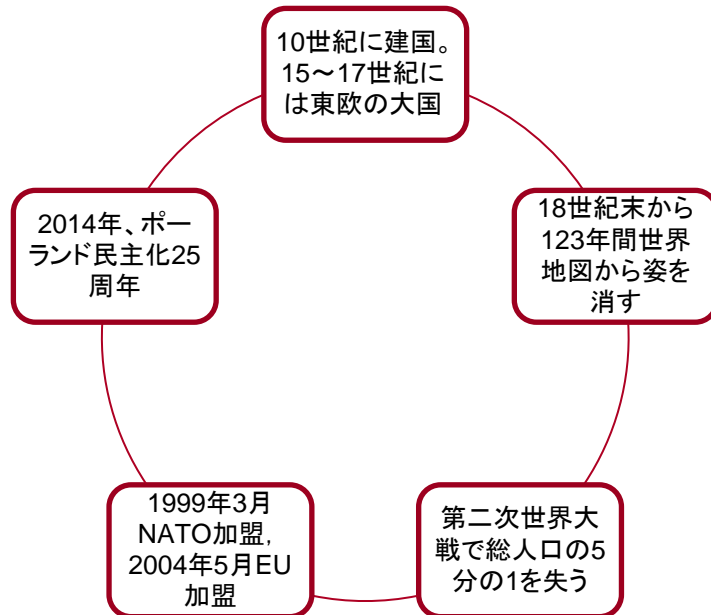
- 明治安田生命保険によるWarta Group買収(2012年1月/220億円)
- 豊田紡績によるTBMECA POLAND Sp.z o.o.買収(2012年12月/非公表)

ホットなセクター  
(2011 - 2013年)

- 金融(3件)

- 明治安田生命とドイツのタランクス社は、2010年11月に資本および業務提携からなる戦略的提携契約を締結しており、2011年12月に、共同保険事業展開の第一弾として、ポーランド第3位の大手保険グループEuropa Group(本社:ポーランド・ヴロツワフ、生保2位・損保11位)を共同で買収しました。また2012年1月にはポーランドにおいて生命保険および損害保険の両事業を展開している国内第2位の大手保険グループ(生保3位・損保3位)で、ポーランド全土にわたる代理店網など幅広い販売チャネルをもつとともに、高いブランド力と強固な事業基盤を有しているワルタ社を買収しました。
- 2014年には日立キャピタル、電通、三甲、ロッテホールディングスなど既に5件のM&Aが発表されており、欧州の成長株であるポーランドへの注目が急速に高まっていることが感じられる動きになっています。
- ポーランドは農業国であることからすれば、今後は「食」「農業」をキーワードにしたM&A案件が多く見られるのではと考えます。

## ポーランド概略(近代史)



- ポーランドは32.3万平方キロメートル(日本の約5分の4、日本から九州、四国を引いた程度)の大きさです。
- 10世紀に建国され、15～17世紀には東欧の大国でした。18世紀末には3度にわたりロシア、プロシア、オーストリアの隣接三国に分割され、第一次大戦終了までの123年間世界地図から姿を消しました。第二次大戦ではソ連とドイツに分割占領されました。大戦での犠牲者は総人口の5分の1を数え、世界最高の比率でした。大戦後はソ連圏に組み込まれたものの、1989年9月、旧ソ連圏で最初の非社会主義政権を発足させました。
- 現在ではEUの東方近隣諸国政策にリーダーシップを発揮し、欧州の対露エネルギー依存からの脱却を目指すイニシアティブを主導するなど積極的な外交活動を展開しています。

## ポーランド概略(経済)

## GDPはEU28加盟国中8位

- GDPはEU28加盟国中8位(購買力平価GDPでは同6位)の水準
- 規模的にはチェコ、ハンガリー、スロバキア3か国のGDP合計とほぼ同額

## 最大の輸出相手はドイツ

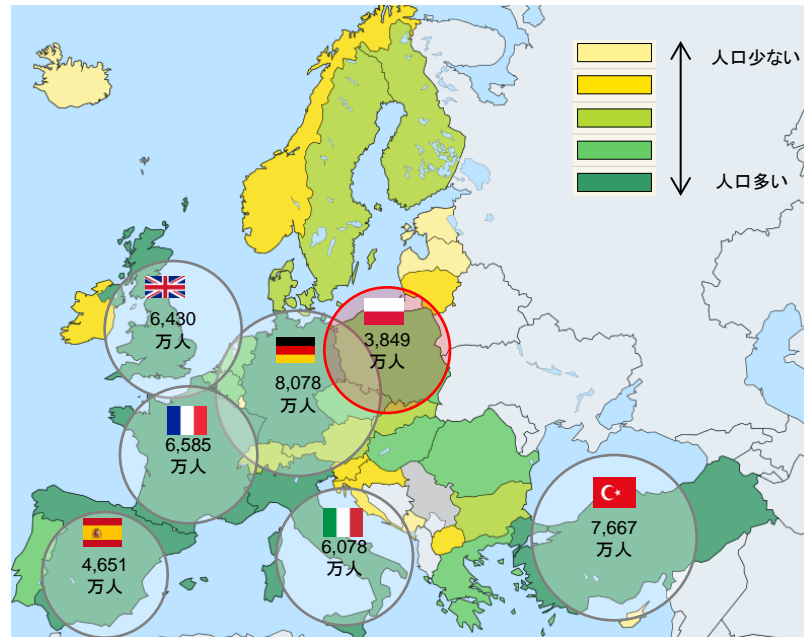
- 輸出はEU域内が7割を占め、主な取引先はドイツ、英国、チェコ、フランス

## 最大の輸入相手もドイツ

- 輸入はEU域内が5割で、主な取引先はドイツ、ロシア、中国、イタリア

- ポーランドのGDP成長率について、2004年のEU加盟以降、2006年から2008年までは5%以上の高成長を維持しました。2008年以降は世界金融・経済危機の影響を受け2009年には1.6%に落ち込んだものの、欧州全体がマイナス成長にある中、プラス成長を維持した唯一の国でした。
- 欧州危機の減速からの回復も早く、2010年には3.9%の成長を達成し、2011年再び欧州が信用危機に見舞われた中でも堅調な輸出や個人消費などに牽引され4.3%の成長を達成しました(バルト三国を除き域内最高レベル)。
- しかし、2012年後半には欧州危機の影響から個人消費が落ち込むなど急速に減速し1.9%成長となりました。2013年も通年で1.6%の成長となり、EU域内で第5位の水準ではあるものの、足踏みの状況にあります。
- ユーロ導入については、当初2012年からの導入を目指していたものの、政府はこれを放棄し、具体的な導入時期については2015年の大統領及び議会選挙後に決定されるべきとしています。

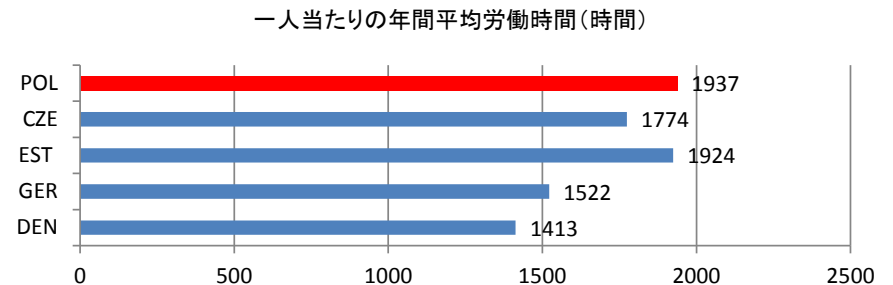
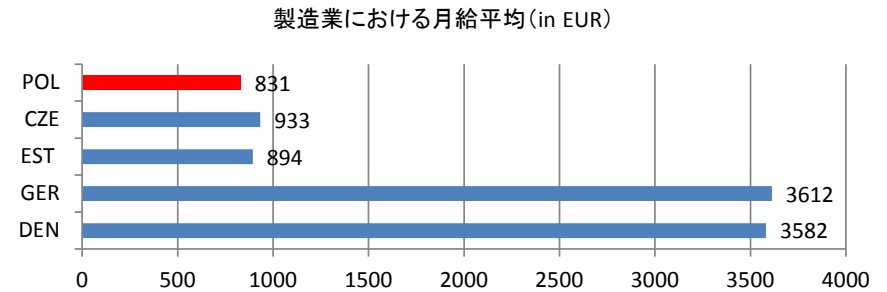
## ポーランドのポテンシャル



(出典)EUROSTAT

- 欧州は人口の小さい国を多く持ちますが、そのなかでポーランドは7番目に大きい3,849万人の人口を誇ります(8番目はルーマニアの1,994万人)。
- 65歳超の人口の割合で見た場合、ポーランドの高齢者割合は13.8%で、これはEU28か国の中で、トルコ7.3%、マケドニア11.8%、アイルランド11.9%、アイスランド12.6%、スロバキア12.8%、モンテネグロ13.0%に次ぐ7番目に低い数値です。なお、ドイツやイタリアは20%を超えており、日本は25%を超える非常に高い水準にあります(日本の65歳以上の人口は3,000万人を超えています)。
- 就業者人口が多いポーランドは、欧州において今後大きな成長が期待される国のひとつです。

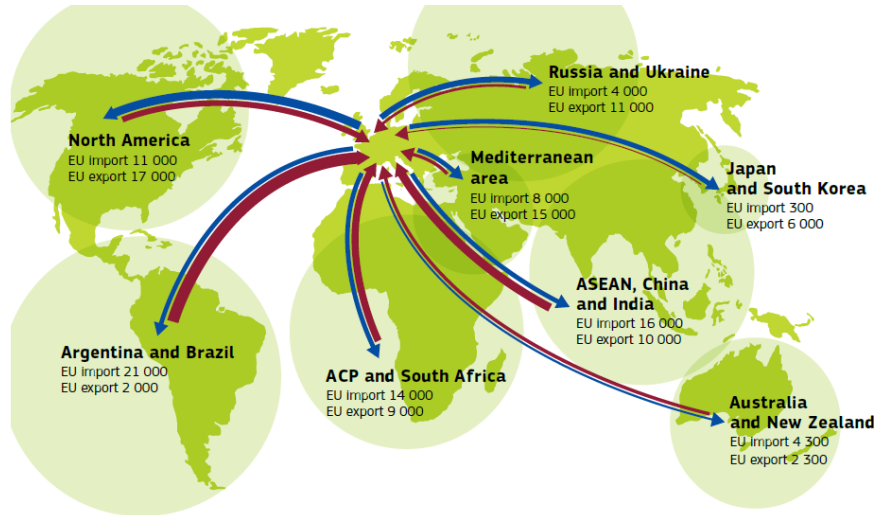
## ポーランドの労働力



(出典)OECD2013

- 上記データは、ポーランドの製造業における月給平均並びに年間の一人当たり労働時間を、欧州の中で先進国に分類されるドイツ(GER)、デンマーク(DEN)と、EUに加入が比較的新しくポーランドと近い経済規模を持つチェコ(CZE)やエストニア(EST)と比較したデータです。
- このデータからは、ポーランドの従業員は勤勉であるのみならず、その給与水準も他の欧州諸国に比して競争力のあるものであることが読み取れます。
- ポーランド人は言語能力の点でも、ドイツ語と英語を堪能に話すことができる人が多く、最大取引国であるドイツとの取引関係構築を円滑に進めることができるのみならず、グローバル対応もできるポテンシャルを有しています。

欧州における農作物の輸出入

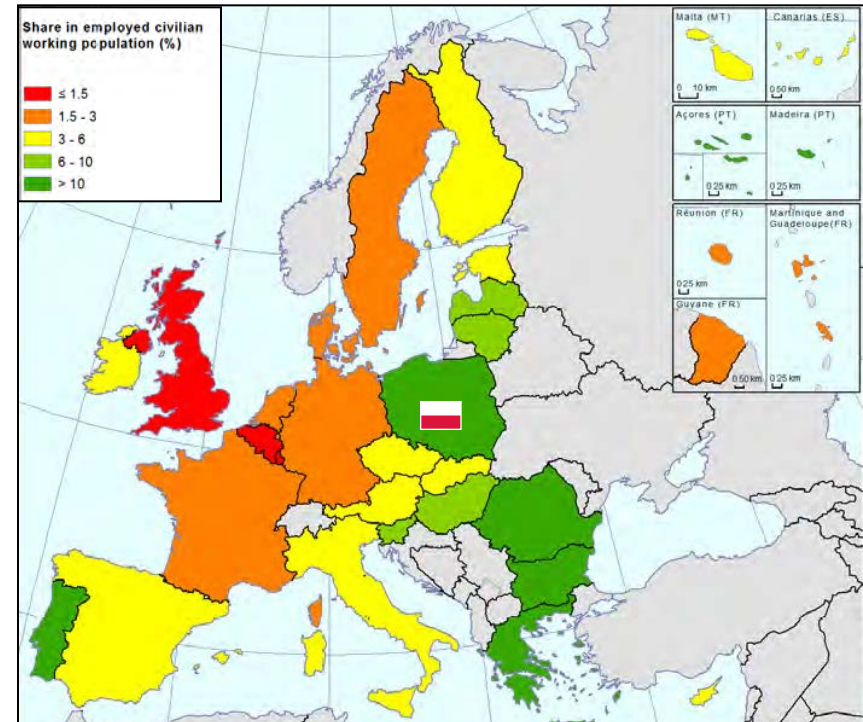


Million euro. Average 2010-12.  
Source: European Commission.

- |                                    |  |                                       |
|------------------------------------|--|---------------------------------------|
| Cereals: <b>300</b> million tonnes | Pears: <b>2</b> million tonnes         | Pigmeat: <b>20</b> million tonnes     |
| Sugar: <b>17</b> million tonnes    | Citrus fruit: <b>11</b> million tonnes | Poultrymeat: <b>12</b> million tonnes |
| Oilseeds: <b>20</b> million tonnes | Wine: <b>160</b> million hectolitres   | Eggs: <b>7</b> million tonnes         |
| Olive oil: <b>2</b> million tonnes | Beef and veal: <b>8</b> million tonnes | Milk: <b>150</b> million tonnes       |
| Apples: <b>10</b> million tonnes   |  |                                       |

- 平地の多い欧州は中欧、西欧、南欧を中心に農業も盛んで、穀類、豚、オリーブオイル、リンゴなど多く生産しています。
- 欧州域内での消費が中心ですが、欧州域外国との取引については、輸入に関しては南米、輸出についてはアメリカが最大の取引相手となっています。
- バナナ等、アジアからの輸入も大きなボリュームがあります。

ポーランドは農業国



- 上記図は人口の何%が農業に従事しているかを示したものであり、緑が10%以上、赤は1.5%以下を示しています(緑→黄緑→黄色→橙→赤の順で従事する割合が低減)。
- ポーランドはルーマニアに次いで2番目に農業に従事する人口割合が高く、欧州においては「農業国」として認識されています。
- 日本もポーランドから多くの豚を輸入しており、今後「食」「農業」というキーワードでポーランドは着目されるものと考えられます。

## ポーランドは東欧？

旧共産圏＝東欧とする考え方



中欧(中央ヨーロッパ)



- 東欧(東ヨーロッパ)という呼称について明確な定義はなく、地理的分類や民族的分類によってその対象は異なり、さらには時代と共にその概念は変化しています。
- 日本において馴染みのあるのは、冷戦における鉄のカーテンの左側(＝共産国)という観点で分類した東欧概念と思われます。この概念によれば、東欧には旧ソ連、チェコ、東ドイツ、ルーマニア、ハンガリー、ポーランドが含まれることとなります(左図の赤でハイライトされた各国)。
- しかし、1989年にソ連の衛星国であった東欧諸国で共産党国家が次々と倒された東欧革命、そしてベルリンの壁崩壊後は、分類においては地域がより強調されるようになり、現在ではオーストリア、スイス、スロバキア、チェコ、ドイツ、ハンガリー、ポーランド、リヒテンシュタインの9か国をまとめて「中欧(中央ヨーロッパ)」とする概念が定着しています(右図で橙でハイライトされた各国)。

## ポーランドの有名人

コペルニクス  
(1473～1543)

当時主流だった地球中心説(天動説)を覆す太陽中心説(地動説)を唱えた。これは天文学史上最も重要な再発見とされる。出身地がドイツかポーランドかを巡り論争があったが、ドイツ系ポーランド人で落ち着いている

ショパン  
(1810～1849)

作曲のほとんどをピアノ独奏曲が占め、ピアノの詩人とも呼ばれる。代表曲に「幻想即興曲」「革命のエチュード」等。強いポーランドへの愛国心から主な活躍地であるフランスの作曲家としての側面が強調されることは少ないが、フランス音楽史にも大きな影響を残す

キュリー夫人  
(1867～1934)

放射線の研究で、1903年のノーベル物理学賞、1911年のノーベル化学賞を受賞し、パリ大学初の女性教授職に就任。娘のイレーヌ・ジョリオ＝キュリーも「人工放射性元素の研究」で、夫フレデリックと共にノーベル化学賞を受賞

ヨハネ・パウロ2世  
(1920～2005)

非イタリア人教皇にして史上初のスラヴ系教皇。同時に20世紀中最年少で着座した教皇(第264代ローマ教皇)でもあり、母国ポーランドを初めとする民主化活動の精神的支柱としての役割も果たす

お問い合わせ先:



村井 慎 / Shin Murai

Director

Direct (Germany): +49-69-170099-99

Mobile (Germany): +49-172-6324998

Email: [smurai@gcakk.com](mailto:smurai@gcakk.com)

GCA Savvian Corporation - Frankfurt

OpernTurm - Bockenheimer Landstraße 2-4, 60306 Frankfurt am Main,  
Deutschland

<http://www.gcasavvian.com/>